

家屋等の浸水など水害時の清掃・消毒方法と衛生対策

1 家屋等が浸水した場合

豪雨等により家屋等が浸水した場合は、洗浄や拭き取りにより十分に汚れを除去し、乾燥させた後に消毒を行いましょう。(消毒は、汚れた状態だと効果を発揮しません。)

2 清掃前の注意

- (1) ガス漏れが無いか確認しましょう。
- (2) 停電していない場合、浸水による漏電が無いか確認ができるまでブレーカーを切っておきましょう。
- (3) 浸水してから時間が経っている場合、時期によりカビが発生している可能性がありますので、ドアや窓などを開放し、十分に換気を行った後に家に入りましょう。
- (4) お子さんやペットは家に入らないようにしましょう。

3 清掃の際の注意

(1) 清掃前・準備編

- ① 室内を乾燥させるため、できる限りドアや窓等を開放しましょう。
- ② ケガを防止するため、長袖シャツ・ズボン、厚手のゴム手袋、ゴム長靴を着用しましょう。
- ③ 粉塵やカビを吸い込まないように、マスクを着用しましょう。
- ④ 目を保護するため、ゴーグルを着用しましょう。(無ければメガネでも効果が期待できます。)
- ⑤ 濡れた畳や洗うことができないもの(革製・布製ソファなど)や不要なものを室外に出しましょう。

(2) 床上清掃編

- ① 床、壁、家具、シンクなどは水と石けん(食器用洗剤など)で泥などを洗い流しましょう。家具などは、移動させ、底部や置いてあった床なども洗い流しましょう。
- ② 食器棚、冷蔵庫などは汚れをきれいに拭き取りましょう。
- ③ 食器類、調理器具類は水洗いで汚れを洗い流しましょう。
- ④ 衣類、布類は熱水で洗濯するか、80℃以上の熱水に10分以上漬けた後に洗濯し、乾燥させましょう。
- ⑤ 清掃後は、可能な限りドアや窓などを開放し、室内を乾燥させましょう。

(3) 家の周囲（壁など）・床下清掃編

- ① 汚泥や不要なものを片付けましょう。
- ② 庭木や外壁に付いた泥や汚れを水で洗い流しましょう。
- ③ 床下換気口のゴミを取り除き、床下の換気をしましょう。
- ④ 床下に溜まった汚泥やゴミをスコップなどで取り除き、流水などで洗い流しましょう。
- ⑤ 可能であれば、扇風機などで強制的に換気し乾燥させましょう。

(4) 清掃後・処理

- ① しっかりと手を洗い、可能であればシャワーを浴びましょう。
- ② 清掃時に着ていた服は、他の服と別に洗いましょう。

4 消毒の際の注意

- (1) 効果を十分に発揮するために、消毒は3のとおり清掃を行った後（清掃⇒乾燥）に実施しましょう。
- (2) 使用箇所に適した消毒薬を使用し、取扱いの注意事項を守って使用しましょう。
※別表1をご参照ください。
- (3) 食品を取り扱う場所やお子さんが遊ぶ場所はしっかり消毒しましょう。
- (4) 長袖シャツ・ズボン、ゴム手袋、ゴム長靴、マスク、ゴーグルを着用しましょう。
- (5) 室内で使用する場合は、ドアや窓などを開放し、十分な換気を確保した状態で行いましょう。
- (6) 消毒薬を移し替えたり希釈する場合は、肌に付かないように注意し、もし付いてしまった場合は、すぐに水で洗い流しましょう。

5 食中毒と感染症予防

- (1) 浄化槽が設置されている場合は、安全と衛生を点検・確認してから使用しましょう。※別表1をご参照ください。
- (2) 井戸水は、水質検査で安全が確認できた後に使用しましょう。※別表1をご参照ください。
- (3) 水に浸かった食品や、停電により保存温度が保たれなかった冷蔵庫の要冷蔵品や冷凍庫の冷凍食品などは廃棄しましょう。
- (4) 水に浸かった自家栽培野菜の生食は避けましょう。
- (5) 体に異変（異常）を感じたら、早急に医療機関を受診しましょう。
- (6) 用便や清掃などの後や食事の前には、しっかりと手を洗いましょう、
- (7) 破傷風ワクチンの接種歴を確認し、10年以内に接種歴が無い場合には医療機関へ相談しましょう。（法定接種で11歳の時点で二種混合を接種していれば、概ね21歳くらいまで免疫が残っていると考えられます。）

別表 1

対象	消毒薬	調整方法	使用方法
・手 指	・石けんと流水		☞汚れを石けんで洗い流水で流す ☞（可能であれば）清潔なタオルなどで乾燥後アルコールで消毒
	・手指消毒用アルコール		
・食器類 ・流し台 ・浴 槽	・次亜塩素酸ナトリウム （家庭用塩素系漂白剤）	・0.02％に希釈 ※各製品の濃度と希釈率は別表2①～③を参照してください。	☞食器用洗剤と水で洗う ☞希釈した消毒液に5分間漬けるか消毒薬を含ませた布で拭き、その後、水洗いか水拭きする ☞よく乾燥させる
	・消毒用アルコール	・希釈せず、原液のまま使用 （70％以上）	☞洗剤と水で洗う ☞アルコールを含ませた布で拭く ☞火気のある場所では使用しない
	・塩化ベンザルコニウム （10％逆性石けん液）	・0.1％に希釈 ※ペットボトルのキャップ2杯（原液10ml）を水500mlに希釈	☞汚れを洗い流すか雑巾などで水拭きしてから十分に乾燥させる ☞調整した消毒液を浸した布などでよく拭く
	・熱湯消毒	・80℃の熱水 ※食器に使用	☞汚れを洗い流す ☞10分間漬す ※有効・安全・経済的な消毒方法
・床 ・内壁 ・家具 などの固い表面 ※1	・次亜塩素酸ナトリウム （家庭用塩素系漂白剤）	・0.1％に希釈 ※各製品の濃度と希釈率は別表2④～⑥を参照してください。	☞汚れを洗い流すか雑巾などで水拭きしてから十分に乾燥させる ☞調整した消毒液を浸した布などでよく拭く ☞金属面や木面などの色あせが気になる場所は2度拭きする
	・消毒用アルコール	・希釈せず、原液のまま使用 （70％以上）	☞汚れを洗い流すか雑巾などで水拭きしてから十分に乾燥させる ☞アルコールを含ませた布などでよく拭く ☞火気のある場所では使用しない
	・塩化ベンザルコニウム （10％逆性石けん液）	・0.1％に希釈 ※ペットボトルのキャップ2杯（原液10ml）を水500mlに希釈	☞汚れを洗い流すか雑巾などで水拭きしてから十分に乾燥させる ☞調整した消毒液を浸した布などでよく拭く

対象	消毒薬	調整方法	使用方法
・家の周囲（壁など） ・床下	・塩化ベンザルコニウム（10%逆性石けん液）	・左記消毒液を 200～500 倍に希釈 ※ペットボトルのキャップ約 1～2 杯（原液 5～10ml）を水 2ℓに希釈	☞汚れを洗い流してから十分に乾燥させる ☞必要があれば、調製した消毒液を噴霧器で散布する ④他へ飛散したり自身にかからないよう、風の無い時に散布する
・井戸水	・なし（清掃のみ）		☞汚水を汲み上げ中に溜まった堆積物をさらい出す ☞浅井戸の場合は井戸底に新しい砂利を敷き詰める ☞飲用前に必ず水質検査を受ける
・浄化槽	・なし（清掃のみ）		☞浄化槽のバクテリアが死滅してしまうため、消毒液は使用しない ☞内部の清掃は避け、外部（マンホール回り）の清掃のみ実施する ☞ブローが稼働しているか確認する ☞使用前に保守点検業者へ相談する

※ 1

- ・汚染の程度がひどい場合や長時間浸水していた場合は、可能な限り次亜塩素酸ナトリウムを使用してください。
- ・次亜塩素酸ナトリウムを使用すると、消毒するものが色あせ・脱色や腐食の恐れがある場合は塩化ベンザルコニウムを使用してください。
- ・次亜塩素酸ナトリウムの消毒液は噴霧しないでください。

別表2 【☞用意するもの：キャップ付きの空の2ℓ と 500ml とペットボトル】

原液種類	希釈液	作り方
①家庭用塩素系漂白剤（5%溶液） （ハイター、ブリーチなど）	0.02% （2ℓペットボトル を使用）	☞ペットボトルのキャップ（約 5ml）2 杯分（約 10ml）を、 <u>半分くらい水を入れた 2ℓのペットボトルへ入れ、さらに水を入れボトルを満杯にしキャップをした後よく振って完成</u>
②医薬品消毒殺菌剤（6%溶液） （ピューラックス、アサヒラックなど）	0.02% （2ℓペットボトル を使用）	☞ペットボトルのキャップ（約 5ml）1 杯半強分（約 8.5ml）を、 <u>①下線部と同様にする</u>
③医薬品消毒殺菌剤（10%溶液） （ピューラックス、アサヒラックなど）	0.02% （2ℓペットボトル を使用）	☞ペットボトルのキャップ（約 5ml）1 杯分（約 5ml）を、 <u>①下線部と同様にする</u>
④家庭用塩素系漂白剤（5%溶液） （ハイター、ブリーチなど）	0.1% （500ml ペットボ トルを使用）	☞ペットボトルのキャップ（約 5ml）2 杯分（約 10ml）を、 <u>半分くらい水を入れた500mlのペットボトルへ入れ、さらに水を入れボトルを満杯にしキャップをした後よく振って完成</u>
⑤医薬品消毒殺菌剤（6%溶液） （ピューラックス、アサヒラックなど）	0.1% （500ml ペットボ トルを使用）	☞ペットボトルのキャップ（約 5ml）1 杯半強分（約 8.5ml）を、 <u>④下線部と同様にする</u>
⑥医薬品消毒殺菌剤（10%溶液） （ピューラックス、アサヒラックなど）	0.1% （500ml ペットボ トルを使用）	☞ペットボトルのキャップ（約 5ml）1 杯分（約 5ml）を、 <u>④下線部と同様にする</u>

- ・次亜塩素酸ナトリウムは、酸性のものと混ぜると有害な塩素ガスが発生しますので、絶対に混ぜないでください。
- ・十分な換気を確保したうえで作業を行ってください。
- ・希釈液を作る際にも、肌や目などに液が付着しないよう、ゴム（ビニール）手袋やゴーグルを着用して作業を行ってください。
- ・万一、皮膚に付着した場合には、直ちに大量の流水で洗い流し、目に入った場合にも同様に洗い流した後に、製品を持って医療機関（眼科）を受診してください。
- ・次亜塩素酸ナトリウムは、色物を脱色させ金属を腐食させる恐れがありますので注意してください。